

学 会 録 事

1. 日本藻類学会第27回大会報告

(1) 日本藻類学会第27回大会

上記大会を2003年3月27日～30日、大会会長前川行幸氏(三重大学)のもと、三重大学生物資源学部(三重県津市)を会場に開催した。参加者238名、講演数は119題(うち口頭発表は86題、展示発表は33題)に及んだ。

大会1日目は午後から生物資源学部会議室にて、編集委員会と評議員会を開催した。大会2日目は午前午後ともA,B両会場で口頭発表が行われ、午後16時30分より日本藻類学会総会を2階大講義室にて開催した。総会終了後、大会会場から徒歩で5分ほど離れた三重大学講堂で懇親会が催され、約190名の参加があった。広い立派な会場の中、質、量ともに懇親会費にしてあまりある料理に舌鼓を打ちながら、歓談がもたれた。大会3日目は午前中に口頭発表と展示発表が行われ、午後は口頭発表と平行して、公開シンポジウム「アマモ場の生態と回復」(オーガナイザー:前川行幸氏(三重大・生物資源)、寺脇利信(瀬戸内水研))が2階大講義室で開催された。10題の講演があり、一般の方々も含めて146名ほどが参加し、活発な討論がなされた。大会4日目に催された伊勢神宮や鳥羽水族館、海の博物館を巡るエクスカッションには17名の参加があり、無事、本大会を終えた。

三重大会の開催にあたり、ご便宜をはかっていたいただいた三重大学生物資源学部の小畑仁学部長と大学関係者の方々、またシンポジウムを後援していただいた三重県農林水産商工部と三重県漁業協同組合の各団体に厚く御礼申し上げます。また大会の運営に当たっては、前川行幸大会会長をはじめ、倉島彰氏、天野秀臣氏、三重大学生物資源学部の大学院生・学生諸氏等他、多数の方々にご尽力いただいた。ここに記して厚く御礼申し上げます。

(2) 第27回大会参加者名簿

Gregory Nishihara, Mari-Helene Noel, 青木優和, 秋山満知子, 鱒坂哲朗, 阿部剛史, 阿部真比古, 天野秀臣, 天野美娜, 新井章吾, 荒木利芳, 有賀祐勝, 飯間雅文, 池上洋子, 石川依久子, 石田健一郎, 和泉安洋, 磯村晶子, 板倉 茂, 出井雅彦, 伊藤泰二, 稲田 勉, 井上 勲, 今井一郎, 岩滝光儀, 岩本浩二, 上森千尋, 牛原康博, 内村真之, 上井進也, 江端弘樹, 江原 亮, 遠藤 浩, 大城 香, 大田修平, 大谷修司, 太田理香, 大野正夫, 大村 現, 岡直 宏, 岡本典子, 奥田一雄, 奥野律子, 長田敬五, 越智昭彦, 小野寺直子, オリカ・セリヴァノヴァ, 甲斐 厚, 柿沼 誠, 笠井文絵, 片岡博尚, 勝久和人, 金井塚恭祐, 金子伊澄, 神谷充伸, 川井浩史, 河地正伸, 河津かおり, 川原利恵, 北山大樹, 喜田和四郎, 金 東琅, 桐原慎二, 金高卓二, 金 波, 工藤 創, 熊野 茂, 倉島 彰, 栗原 暁, 栗藤和治, 桑野和可, 高口由紀子, 河野益範, 小亀一弘, 後藤真樹, 小林正美, 近藤貴靖, 齋賀守勝, 齋藤宗勝, 坂井広人, 嵯峨直恒, 坂西芳彦, 坂本

敏夫, 坂山英俊, 桜井亮介, 佐々木美貴, 佐々木律子, 佐藤晋也, 佐藤征弥, 佐藤陽子, 澤井祐紀, 志賀裕子, 柴田あゆみ, 柴田 幸, 島袋寛盛, 清水健志, 周藤靖雄, 伊良部義久, 末友靖隆, 鋤柄ちさ, 杉野伸義, 洲崎敏伸, 鈴木 怜, 鈴木拓也, 鈴木秀和, 鈴木雅大, 鈴木満平, 須田彰一郎, 関田諭子, 関本訓士, 芹澤如比古, 孫 忠民, 田井野清也, 高津翼, 高野義人, 高橋昭善, 高橋 修, 高橋鉄平, 滝尾 進, 瀧下清貴, 田口保彦, 竹内一郎, 竹中裕行, 但野智哉, 田中厚子, 田中 健, 田中貞子, 田中次郎, 田中敏博, 田中法生, 田中博, 田中正明, 棚田教生, 谷内由貴子, 谷藤吾朗, 種倉俊之, 玉置 仁, 田村舞子, 樽谷賢治, 團 昭紀, 土屋建人, 津村みち, 寺田竜太, 寺脇利信, 内藤佳奈子, 内藤知恵, 仲岡雅裕, 長里千香子, 長沢 努, 長嶋美香子, 中嶋 泰, 中野大一郎, 永野真理子, 中村恵理子, 中村起三子, 中村敬至, 中村洋平, 南雲 保, 新村陽子, 西あかね, 西田大起, 西洞孝広, 二宮早由子, 野崎久義, 能登谷正浩, 野間広太郎, 野呂忠秀, 橋岡孝志, 橋本奈央子, 長谷川和清, 幡野恭子, 波多野由実, 羽生田岳昭, 馬場俊典, 馬場将輔, 濱田 仁, 原口展子, 原澤友樹, 半田信司, 比嘉 敦, 東出幸真, 菱沼佑, 平岡雅規, 平山仁斗, 深谷幸子, 藤田悟史, 藤田大介, 藤原孝行, 保科 亮, 堀口健雄, 堀口法臣, 本多大輔, 本多正樹, 前川秀男, 前川行幸, 松井純, 松尾嘉英, 松村和明, 松村航, 松本里子, 松本正喜, 松山和世, 真山茂樹, 水野 真, 御園生拓, 峯一郎, 宮地和幸, 宮下英明, 宮地由紀, 向井 宏, 村岡大祐, 村上明男, 村上祐重, 村瀬昇, 本村泰三, 森田晃央, 守屋真由実, 山口愛果, 山口啓子, 山口 喬, 山口峰生, 山中良一, 山本芳正, 湯浅智子, 雪吹直史, 横田圭五, 横山亜紀子, 吉川伸哉, 吉崎 誠, 吉田吾郎, 吉田昌樹, 吉永臣吾, 吉見圭一郎, 四ツ倉典滋, 若菜 勇, 和久井敏史, 輪島 毅

(3) 編集委員会・評議員会

3月27日午後3時から三重大学生物資源学部会議室において、英文誌編集委員会および和文誌編集委員会の合同編集委員会を開催した。

和文誌について今年度より着任した前川編集委員長より第51巻「藻類」の編集状況に関する報告があり、掲載済みの論文1報の他、受理済みの短報が1編、審査中の論文2報、短報2編があることが報告された。また大会要旨集編集の労力等を考慮し、今後は講演要旨の受付は電子化して対応することが提案された。討議の結果、来年度の大会から実施することが了承された。要旨受付方法等の詳細については、次期開催地の大会準備委員と今後協議していくことが了承された。

英文誌については同じく今年度交代した奥田編集委員長から「Phycological Research」の2002年度、2003年度の編集状況および年間投稿状況に関する報告があった。また今年度より投稿規定を変更し、電子メールの添付ファイルのみでの投稿を可能にしたことが報告された。さらに同誌に対する科

学研究費補助金交付を今後とも維持していく必要があることから、オブザーバーとして参加していただいたBlackwell Publishing Asiaの荒生氏とJulian氏から同社で編集したAnnual reportに基づいた説明を受けた。そして国際情報発信としての本誌の役割をより高め、外国人購読者数を増やす必要があり、その方策等について種々議論された。

評議員会は編集委員会終了後、同会議室にて午後5時より開催された。原会長が不在のため、吉崎誠氏を議長に選出し、2003年度総会に提出する報告事項・審議事項などに関して審議した。その内容に関しては総会の項を参照されたい。

合同編集委員会・評議員会開催にあたっては前川行幸氏、倉島彰氏をはじめ、三重大学の学生諸氏に大変便宜を払っていただいた。記してお礼申し上げる。

(4) 2003年度総会

2003年3月28日の口頭発表終了後、午後4時30分より三重大学生物資源学部2階大講義室にて総会を開催した。原会長不在の中、大野正夫氏を議長に選出して総会の議事に入った。

【報告事項】

●庶務関係

(1) 会員状況(2002年12月31日現在): 名誉会員3名, 普通会員618名, 学生会員78名, 団体会員57名, 賛助会員14名, 外国会員132名(33カ国), 国内購読34件。(2) 2002年度文部省科学研究費刊行助成金「研究公開促進費」交付額は2,100,000円であった。(3) Algae2002(第26回大会・評議員会・総会, JSP50周年記念行事, 第3回アジア太平洋藻類学フォーラム合同会議(APPF)): 7月19日~24日, 産業技術総合研究所・共用講堂)を開催した。(4) JSP50周年記念事業の一環として, 子どもゆめ基金の助成を受けて「海の森の不思議を探る一夏休み海藻生態体験活動2002」を実施し, また記念出版「21世紀初頭の藻学の現況」を発行した。(5) 和文誌「藻類」50巻1~3号を発行した。(6) 英文誌「Phycological Research」50巻1~4号を発行した。(7) 第5回日本藻類学会論文賞(関田論子氏, 堀口健雄氏, 奥田一雄氏)を授与した。(8) 秋季シンポジウム「新しい海藻由来の製品の科学的検討」を日本海藻協会と応用藻類学研究会との共催(12月6日, ロイヤル・パークホテル)で開催した。(9) 第6回マリンバイオテクノロジー学会(5月25日, 26日, 東京農工大学工学部)に協賛した。(10) 日本植物学会第66回大会で「集める・貯める・使う: 時空を越える生物多様性の情報」-植物分類学関連学会連絡会シンポジウム-に参画した。(11) 会長・評議員選挙を実施した。(12) 次期Phycological Researchの編集長・「藻類」編集委員長を編集委員会内規に基づき選出した。(13) 日本学術会議第19期学術研究団体登録と会員候補者の推挙を行った。(14) 第6回論文賞の選考を行った。(15) Algae2002のプロシーディングの編集・発行作業を進めた(3月現在, 作業中)。(16) 会則の改正を行った。日本藻類学会第10条に「なお, 会務に議決を要する場合は総会がそれを行う。」を付記し

た。(17) 日本分類学連合へ加盟した。

●会計関係

(1) 2003年3月8日現在の2002年度会費納入率は, 一般会員94%, 学生会員79%, 賛助会員77%, 団体会員71%, 外国会員86%であった。(2) その他の事項に関しては審議事項を参照されたい。

●編集関係

(1) 2002年度に発行した和文誌「藻類」第50巻1~3号は, 総頁数187頁, 内訳は原著論文・短報3編, 総説1編, 研究技術紹介1編, その他であった。(2) 来年度の藻類学会大会から講演要旨の受付は電子化して対応することが提案された。(3) 2002年度に発行した英文誌「Phycological Research」第50巻1~4号は, 総頁数324, 掲載論文33編であった。これらに関連した詳細については, 前述の(3)編集委員会・評議員会の項を参照されたい。

【審議事項】

●庶務関係

(1) 2003年事業計画として以下の事項が承認された: 1) 日本藻類学会第27回大会・評議員会・総会(三重大学生物資源学部3月27日~3月30日)の開催。2) 第6回日本藻類学会論文賞の授与と第7回論文賞の選考。3) 和文誌「藻類」51巻1~3号の発行。4) 英文誌「Phycological Research」51巻1~4号の発行。5) 秋季シンポジウムの開催 世話人: 大野正夫氏(高知大学)「海藻加工の開発研究に関連したテーマ」で11月上旬を予定。6) マリンバイオテクノロジー国際会議2003(幕張)の協賛。7) 日本植物学会67回大会(札幌)時の植物分類学関連学会連絡会主催のシンポジウムへの参画(植物と昆虫の共進化を軸にした講演, 木下氏と綿野氏が世話人, 横山氏が企画)。

(2) 2005年の日本藻類学会大会の開催地は近畿地区とし, 中原紘之(京都大学)にお世話をお願いすることが承認された。

(3) 昨年11月の持ち回り評議員会で組織化が認められた藻類学会活性化ワーキンググループからの提案を本大会評議員会で協議検討して, 以下の6項目にとりまとめた“学会活性化のための方策”を, 川井浩史氏(神戸大学)が代表して提案説明を行い, 総会に諮った。1) アジア太平洋地域藻類学連合(Asian Pacific Phycological Association)との連携強化と外国人会員の増加のため, 会費助成も含めた具体策を早急に策定し, 評議員会の了承を経て実施する。2) 外国人会員に原則として国内会員と同等の権利(学会録事などの報告, 選挙権など)を付与する方向で, 具体的な方策の検討を進める。3) 学会実務, 特に広報の充実のため, 以下の庶務幹事を増員する。○庶務幹事(海外担当): 学会録事等の翻訳, および外国人会員に関する諸事項を扱う。○庶務幹事(広報担当): 日本語・英語版ホームページの作成・運用。4) 論文賞の対象は英文誌「Phycological Research」で発表された論文のみとし, 選考委員に外国人副編集長, 編集委員も加える。一方, 和文誌「藻類」で発表された論文, 企画, 総説, 解説, 記事などを対象とした新たな賞を設ける。選考方法は現行通

りとし、名称は今後検討する。5) 学会事業として日本産藻類の「藻類誌」(大型藻類から実施)を編纂・発行する。このため、発行形態の検討、原稿の編集、発行などを行う「藻類誌編纂委員会」を設置する。6) 「藻類誌」発行のため、「山田基金」の一部を使用する。これらの提案について種々議論した結果、早期に実施可能なものは実施に移すとして、まだ具体性に乏しいものについては、今後ワーキンググループと事務局で内容を具体化し、評議員会や総会の承認を得ながら実施していくことで、提案は概ね了承された。これに関連したより詳細な内容は本録事のその他の報告に掲載しているので参照されたい。

●会計関係

- (1) 2002年度一般会計決算報告および同監査報告は表1-1および表1-2の通り承認された。
- (2) 2002年度山田幸男博士記念事業特別会計の決算報告および同監査報告は表2-1および表2-2の通り承認された。
- (3) 2003年度一般会計および山田幸男博士記念事業特別会計の予算は表3および表4の通り承認された。
- (4) 2003-4年度の会計監事は、27日の評議員会で選出された齋藤宗勝氏(盛岡大学短期大学部)と日野修次氏(山形大学)が承認された。

【日本藻類学会論文賞授与】第6回日本藻類学会論文賞受賞者の発表がおこなわれた。これは2002年に出版された和文誌「藻類」50巻1～3号、および2001年から2002年にかけて出版された英文誌「Phycological Research」vol.49(4), vol.50(1)-(3)の中から、規定により審査員の投票によって選ばれ、総会の前日に開催された編集委員会および評議員会で了承を受けたものである。今回の投票では、最高得票数を得た以下の論文の著者にそれぞれ賞状が授与された。

The Pinguiphyceae *classis nova*, a new class of photosynthetic stramenopiles whose members produce large amounts of omega-3 fatty acids. Phycological Research 50(1):31-47 (2002), 受賞者: Masanobu Kawachi, Isao Inouye, Daisuke Honda, Charles J. O'Kelly, J. Craig Bailey, Robert R. Bidigare and Robert A. Andersen

2. その他の報告

(1) 植物分類学関連学会連絡会

植物分類学関連学会連絡会第16回会議は今春の日本植物分類学会大会(神戸大学)の期間中に開催予定であったが、植物学会時のシンポジウムの内容の確認以外に特別な議題がないことなどから中止となった。同シンポジウム企画の進捗状況については、今年度の連絡会企画のシンポジウムは植物と昆虫の共進化を軸に、4人の演者(加藤真氏、杉浦直人氏、升屋勇人氏、牧野崇司氏)により講演が行われる旨の連絡があった。

(2) 平成15年度科学研究費補助金研究成果公開促進費「学術定期刊行物」の「Phycological Research」への交付内定について

昨年申請した上記促進費に対し、本年度は日本学術振興会から平成14年度より100,000円増の2,200,000円の内定通知があった。

(3) 第27回日本藻類学会大会(三重大学)総会で審議された“学会活性化のための方策”について

日本藻類学会2003年度総会において了承された上記の方策案について、その後原会長の意見等もふまえ、下記のような検討がなされている。1) 外国会員の増加入促進、外国人会員への国内会員と同等の権利の付与については、その具体案や方策についてワーキンググループで検討していく。2) 学会実務、特に広報活動の充実のための幹事の増員については、ワーキンググループから担当者の推薦を受け、庶務幹事(海外担当)には石田健一郎氏(金沢大)、庶務幹事(広報担当)には畠田智氏(北大・院)を選出し、両氏の内諾を得た。なお任期は2004年12月31日までとし、これまで日本藻類学会のホームページを担当していただいていた洲崎敏伸氏(神戸大)には引継のため、2003年12月31日まで引き続き、お世話いただくことになった。3) 日本藻類学会論文賞の制度や選考方法等についてはワーキンググループ、英文誌編集局、および庶務幹事(海外担当)が具体案を検討し、また和文誌「藻類」に発表された論文等を対象とした新たな賞についてはワーキンググループと事務局および和文誌編集局と具体案作成に向けて検討することとした。4) 日本産藻類の「藻類誌」の編纂・発行については、ワーキンググループの一員でもある川井浩史氏(神戸大)が中心となり、「藻類誌編纂委員会」設置の具体案を検討することとした。また「藻類誌」発行に必要な資金としては、当面、和文誌「藻類」に掲載することを前提として、「藻類誌」発行の資金は、和文誌編集局の編集費から拠出してはどうか、事務局から提案した。

(4) 第9回国際藻類学会(2009年)東京開催内定と同準備委員会設立について

昨年9月に日本藻類学会は第9回国際藻類学会の開催地を日本として立候補した(「藻類」50巻3号)が、IPC(国際藻類学会)会長のMelkonian氏より、日本開催が内定した旨連絡があった。このため、会の規模や日本藻類学会のそれまでの体制作りなどを考え、非公式に評議員会と合同編集委員会、学会活性化ワーキンググループのメンバーによるIPC9準備委員会設立の打ち合わせの会合を第27回日本藻類学会三重大会時の3月29日に開催した。2004年までは日本藻類学会事務局が窓口になり、事務処理はIPC9準備委員会が行いながら、その間に準備委員会がIPC9組織委員会の設立を準備し、2005年までに発足させる。2005年以降は日本藻類学会から切り離し、IPC9組織委員会が独自に組織運営を進めるというスケジュールが学会事務局側から示された。

表1-1. 2002年度一般会計決算(案)(2002.1.1-2002.12.31)

収 入 (円)		支 出 (円)	
会 費	9,052,018	和文誌印刷・発送費	1,921,111
普通会員	4,577,000	印刷代	1,429,611
学生会員	245,000	別刷代	174,720
外国会員	525,000	発送費	316,780
団体会員	870,000	英文誌印刷・発送費	6,153,800
賛助会員	390,000	編集費	300,000
その他	2,445,018	庶務費	437,570
販 売	440,888	事務用品費	16,212
定期購読	415,638	会議費	144,318
バックナンバー	25,250	通信印刷費	204,116
別刷代	257,700	諸雑費	72,924
超過頁負担代	12,000	幹事旅費補助	52,540
広告代	330,000	Algae2002 補助費	300,000
受取利息	2,073	Algae2002 編集補助費	700,000
学術振興会刊行助成金	2,100,000	秋季シンポジウム補助費	50,000
子どもゆめ基金助成金	83,663	子どもゆめ基金助成金	83,663
英文誌還付金	138,568	自然史学会連合分担金	20,000
雑収入	3,780		
小 計	12,420,690	小 計	10,018,684
前年度繰越金	10,361,799	次年度繰越金	12,763,805
合 計	22,782,489	合 計	22,782,489

表1-2. 2002年度貸借対照表(2002.1.1-2002.12.31)

貸 方 (円)		借 方 (円)	
普通預金(山形銀行、東山形)	301,631	未払金	36,235
普通預金(四国銀行、朝倉)	1,772,826	前受会費	15,000
郵便口座(山形)	1,820,760	次年度繰越金	12,763,805
郵便口座(高知)	8,917,874	前年度繰越金	10,361,799
現金(山形)	1,949	当期余剰金	2,402,006
合 計	12,815,040	合 計	12,815,040

表2-1. 2002年度山田幸男博士記念事業特別基金会計決算(案)(2002.1.1-2002.12.31)

収 入 (円)		支 出 (円)	
受取利息	3,737	論文賞用雑費	945
		貸付・Algae2002 Proceedings	200,000
		貸付・藻類グッズ作製	266,700
小 計	3,737	小 計	467,645
前年度繰越金	2,598,728	次年度繰越金	2,134,820
合 計	2,602,465	合 計	2,602,465

表2-2. 2002年度山田幸男博士記念事業特別基金貸借対照表

貸 方 (円)		借 方 (円)	
定期預金 (三井住友、京都)	1,900,000	次年度繰越金	2,134,820
普通預金 (三井住友、京都)	213,551	前年度繰越金	2,598,728
現金 (山形)	3,269	当期貸付金	△466,700
		当期余剰金	2,792
合 計	2,134,820	合 計	2,134,820

日本藻類学会 2002年度決算報告に対し記名捺印する。

2003年3月18日

会 長 原 慶明 印
 会計幹事 半澤 直人 印

決算書が適正であることを認める。

2003年3月18日

会計監査 日野 修次 印
 横山 亜紀子 印

表3. 2003年度一般会計予算 (案) (2003.1.1-2003.12.31)

収 入 (円)		支 出 (円)	
会 費	5,731,000	和文誌印刷・発送費	2,800,000
普通会員	3,888,000	印刷代	2,200,000
学生会員	235,000	別刷代	300,000
外国会員	483,000	発送費	300,000
団体会員	765,000	英文誌印刷・発送費	6,500,000
賛助会員	360,000	編集費	600,000
販 売	250,000	編集補助費	200,000
定期購読	200,000	通信補助費	300,000
バックナンバー	50,000	事務用品費	100,000
別刷代	200,000	庶務費	610,000
超過頁負担代	100,000	事務用品費	160,000
広告代	200,000	会議費	100,000
受取利息	2,000	通信印刷費	200,000
学術振興会刊行助成金	2,100,000	諸雑費	150,000
英文誌還付金	130,000	事務補助	100,000
寄付金	50,000	幹事旅費補助	100,000
		大会補助費	120,000
		秋季シンポジウム補助費	50,000
		自然史学会連合分担金	20,000
小 計	8,763,000	小 計	10,900,000
前年度繰越金	12,763,805	次年度繰越金	10,626,805
合 計	21,526,805	合 計	21,526,805

表4. 2003年度山田幸男博士記念事業特別基金会計予算 (案) (2003.1.1~2003.12.31)

収 入 (円)		支 出 (円)	
受取利息	3,000	論文賞用雑費	2,000
貸付返済	466,700		
小 計	469,700	小 計	2,000
前年度繰越金	2,134,820	次年度繰越金	2,602,520
合 計	2,604,520	合 計	2,604,520